

# WHO 新変異株「懸念」指定

## 「オミクロン」再感染力を警戒

【ベルリン＝時事】世界保健機関(WHO)は26日、南アフリカなどで確認された新型コロナウイルスの新たな変異株を、最も警戒レベルが高い「懸念される変異株(VOC)」に指定しました。また、ギリシャ文字から「オミクロン株」と命名しました。↓関連④面

WHOは、オミクロン株は「多数の変異があり、うち一部が懸念される」と説明。デルタ株など他のVOCよりも再感染リスクが高いことを示す「暫定的な証拠」があり、感染拡大のペースも速い可能性があるとして、従来のPCR検査で検出はできているといます。ワクチンの効果を下げることがあるかには言及していません。

WHOは「注目のべき変異株(VOC)」のうち、感染力が高いといった条件を満たしたものをVOCに指定しています。

オミクロン株は、南アやポツワナ、イスラエル、香港、ベルギーなどで確認されています。

### 国立感染症研 監視を強化

国立感染症研究所は27日、ほか、必要に応じて変異株までに、南アフリカなどで確認された新型コロナウイルスの新たな変異株「オミクロン株」について、警戒度が2番目に高い「注目のべき変異株」に指定しました。

感染研による国内の変異株監視には3段階があり、警戒度が最も高いのはデルタ株などが対象の「懸念される変異株」となっています。

WHOによると、南アから最初の感染例やクラスター(感染者集団)のWHOへの速やかな報告▽重症化の度合いなどの調査一を行うよう求めました。WHOも分析を進める方針。

WHOによると、南アから最初の感染例やクラスター(感染者集団)のWHOへの速やかな報告▽重症化の度合いなどの調査一を行うよう求めました。WHOも分析を進める方針。



英ロンドン行き航空便の欠航を示す国際空港の案内板  
26日、南アフリカ・ヨハネスブルク(ロイター)

国内での検出例はありませんが、検査などで見つかった患者のウイルスの全遺伝情報(ゲノム)を調べる摘されています。